

1月25日のながさきニュース

長崎新聞

対馬・久原小中が奄美、西表とネットで遠隔授業 3大学連携共同研究

インターネットを利用したテレビ会議で奄美大島と西表島の児童に向けて発表する久原小児童＝対馬市、久原小

【対馬】対馬市上県町の市立久原小中(青木俊幸校長、四十二人)と、鹿児島県奄美大島、沖縄県西表島の複式学級で学ぶ小学生が二十三日、インターネットを利用したテレビ会議で、遠隔共同学習に取り組んだ。

文科省が支援する長崎大、鹿児島大、琉球大の三大学連携による共同研究事業。コミュニケーション相手が少人数に限られている離島教育の改善や充実が目的。昨年度に続き二回目。

久原小には長崎大教育学部の寺嶋浩介准教授(32)が訪れ、パソコンにカメラやマイクなどを設置。プロジェクターにカメラ画像を映した。

児童は総合的な学習や社会科などで互いの地域について事前に調査。▽久原小三、四年生八人は祭りや史跡▽鹿児島県大和村立名音小三、四年生二人は大島紬(つむぎ)と薩摩切子(ガラス細工)▽沖縄県竹富町立白浜小三、五年生三人は島の概要や生息する希少動物一な

どを紹介した。

児童らは他県の祭りや史跡、特産品、動物などに興味津々。生き生きとした表情で発表を聞き、質問を交わした。久原小四年の早田菜々子さん(10)は「鹿児島県や沖縄県の良さが分かった。ほかの県の人たちと交流ができてとても楽しかった」と話した。